

完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付: 2021年4月13日

事業ID: 2020534787

事業名: ホームホスピス実践リーダー養成

団体名: NPO法人老いと病いの文化研究所われもこう

代表者名: 代表者 竹熊千晶 印

TEL: 096-329-7833

事業完了日: 2021年3月31日

事業費総額	:	2,714,389円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	:	14,389円	収支計算書の緑のセルの値
助成金額	:	2,700,000円	収支計算書の赤のセルの値。千円未満は切捨
助成金返還見込額	:	0円	(収支計算書の青のセルの値)

1.事業内容

助成契約書記載の事業内容(予定)と、事業完了時の事業内容(実績)を対照可能とするため、助成契約書と一緒に綴じている「事業計画」の事業内容欄を転記した上、体裁を変えずに結果を記入してください。

なお、事業内容を複数設定している場合は、各事業内容ごとの完了時の実績を個別に記入してください。事業内容が4つ以上ある場合は、一つの事業内容ボックスに複数ご記載頂いて構いません。

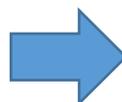
■事業内容1

(1)助成契約書記載の事業内容(予定)

1.研修期間 2020年10月～2021年3月(6ヶ月)
2.受入機関 ホームホスピスわれもこう(熊本県熊本市)
3.研修者 看護師1名
4.研修後希望 ホームホスピスの開設
5.研修内容 ホームホスピスの介護技術、管理業務、チームアプローチ他

(2)事業完了時の事業内容(実績)

1.研修期間 2020年10月16日～2021年3月31日
2.受入機関 ホームホスピスわれもこう(熊本県熊本市)
3.研修者 看護師1名
4.研修後希望 ホームホスピスの開設
5.研修内容 ホームホスピスの介護技術、管理業務、チームアプローチ他



(3)成功したこととその要因

事業を実施し成功したことと、その理由を記載してください。

6カ月の研修期間を無事に終えることができた。研修期間中にホームホスピスの看取りの実際、家族との関わり、医師や他専門職との連携などを具体的に学ぶことができた。

(4)失敗したこととその要因

契約時に予定したとおりに事業を実施できなかった場合は、実施できなかった理由を記載してください。

コロナ禍であり、他のホームホスピスでの研修やホームホスピスの仲間との交流はほとんどできなかった。研修や育成塾などオンラインでの交流には限界があった。

(5)事業内容詳細

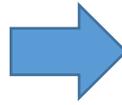
上記「(2)事業完了時の事業内容(実績)」の詳細について、ご記載ください。別途報告書を作成されている場合は、それを添付いただければ省略可能です。

別添の研修報告書を参照

■事業内容2

(1)契約時の事業内容

(2)事業内容の実施(完了)状況



(3)成功したこととその要因

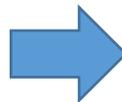
(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

■事業内容3

(1)契約時の事業内容

(2)事業内容の実施(完了)状況



(3)成功したこととその要因

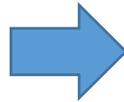
(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

■事業内容4

(1)契約時の事業内容

(2)事業内容の実施(完了)状況



(3)成功したこととその要因

(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

2.契約時事業目標の達成状況:

(1)助成契約書記載の目標

助成契約書と一緒に綴じている「事業計画」の目標欄の内容を転記してください。

以下の人材を育成することを目標とする。

- 「病い」や「障害」を持つ人とその家族に対して、最後の時までその人がそれまで生きてきた人生を尊重されるような療養生活を考え、ケアを実行できる人材
- 地域に看取りの文化を伝承するようなまちづくりを考えることができる人材
- 在宅や地域での質の高いホスピスケアを習得している人材

(2)目標の達成状況[700文字以内]

入力文字数	656	文字数チェック	OK
<p>1. 研修生小牧氏に対して「ホームホスピスわれもこう薬師」「ホームホスピスわれもこう新大江」において、6か月間の研修を実施した。スタッフとともに、ローテーションのなかでのケアに入り、宿直業務、リーダー業務を行った。その中で、研修期間中に3名の看取りがあり、感染対策、家族への説明と関わり方、医師との連携、スタッフとの情報共有、デスカンファレンスなど、具体的な経験のなかで、最後の時までその人がそれまで生きてきた人生を尊重されるような療養生活を考え、家族とともにケアを実行することの学びが得られたと思われる。</p> <p>2. 地域住民との関わりは、日常の生活のなかで、近隣住民との関わりを経験することができた。コロナ禍でのリーダー研修であり、家族や地域との関わりは通常より少なかったが、このような状況だからこそつながりもみることができた。</p> <p>3. ホームホスピス協会主催の育成塾、全国研修会はオンラインで参加することができたが、全国のホームホスピスを志す仲間との交流は十分であったとは言い難い。われもこう以外のホームホスピスにも研修予定であったが、行くことが出来なかった。一方で、病院や他施設で面会制限がある中、このような状況下でのホームホスピスの対応を学ぶことができたと思われる。さらに、医師、訪問看護師、ケアマネージャーなど、ホームホスピスに関わる他の専門職との連携も実際に行うことができた。小牧氏は看護師の資格経験だけでなく、訪問看護の認定看護師もっており、今回の研修でホームホスピスのリーダーとして成長できたと思われる。</p>			

3.事業実施によって得られた成果

事業完了後、事業成果が実現するまでにある程度の時間を要する場合、実現すると見込まれる事業成果は「****年**月頃に****が****になっていると見込まれる」のかを記載して下さい。
複数年計画がある場合、複数年計画の「****年**月頃に****が****になっていることを目指す」のかを、最終目標(中長期目標)として記載して下さい。
施設や機器整備した場合、整備した数年後に見込まれる成果(例えば2年後、3年後)を設定し、「****年**月頃に****が****になっていると見込まれる」かを、中長期目標として記載して下さい。
小牧氏は終了後、3年以内にホームホスピスの立ち上げを予定している。
まずは、立ち上げを予定している大阪府寝屋川市に帰りケアマネージャーを行いながら、ホームホスピスを行う仲間づくり、NPOの開設準備と並行し、ホームホスピスを行う”家”、物件を探すことを目指す。
2年後には、物件の改修、整備を行い、地域への挨拶と地域で研修会などを行い理解を得る。仲間とともにヘルパーステーションの開設、できれば訪問看護ステーションも開設し、3年後には寝屋川で住人を迎え、ホームホスピスを開設、開始することが見込まれる。

4.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

まず、在宅ホスピスリーダーの養成研修として、レポート提出の遅さと内容の不十分さがあげられる。ホームホスピスの開設にあたっては、NPOやヘルパーステーションなど事業開設のためのさまざまな書類作成も必須である。仲間づくりを行いながら事務局となる人材もみつけていくことが望ましい。
また、ホームホスピスとして活動できる”家”となる物件を探すことが、もうひとつの大きな課題である。寝屋川という地域の特性から平屋、民家の空き家を探すことは、相当な困難が予想される。小牧氏は長年寝屋川で勤務していた実績があり、そのネットワークを使って、寝屋川という特性をいかした物件を創意工夫して改修していく必要がある。
さらに、地域との関係性において、これまで生まれ育った地域ではないため、信頼性の構築から始めていかなければならない。しかしながら、小牧氏の明るさと仕事のなかで得られた友人・知人との関係性を広げ、深めることによりつながりを持つことが可能であろう。
家族も医療職として寝屋川で働いており、協力してくれることは大きな強みであり、それらの人的な協力を得て、ホームホスピスを開設していくことができるのではないだろうか。

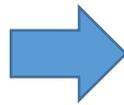
5.事業成果物

(1)助成契約書記載の成果物名称

助成契約書記載の成果物名称を転記してください。
研修報告書

(2)事業完了時の成果物名称

実際に作成した成果物の名称を記載してください。
※チラシ、ポスター等の印刷物については作成枚数を追記いただけますようお願いいたします。
研修報告書
・日誌
・月ごとのレポート
・終了報告書



(3)未作成となった要因

契約時の事業成果物で作成していないものがある場合は理由を記載してください。

(4)成果物を登録したウェブサイトのURL

成果物の登録方法については、こちらをご確認ください→ https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2019/03/gra_gui_01-1.pdf (なお、事情により、公開が困難な成果物に関しては、表紙のアップロードをお願いいたします。)
上記で登録したURLをご記載ください。